

常総市総合教育会議 会議録【要旨】

【日 時】 平成30年6月29日（月）午前9時～9時44分

【場 所】 常総市役所本庁舎庁議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協 議 事 項
生徒の水難事故について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

出 席 者

教 育 委 員：岡野克巳教育長，入江昭三郎教育委員，平井丈史教育委員，東谷綾子教育委員，荻根文江委員

教育委員会：沼尻教育部長，町田学校教育課長，蛭原指導課長

市 長 部 局：神達市長，藤島副市長，荒木総務部長

事 務 局：小林行政経営課長，神達行政経営課長補佐，落合行政経営係長

行政経営課長	それでは、ただいまから総合教育会議を開催する。本会議は議事録を作成し、公開が原則となる。案件によっては、一部を非公開とすることを申し添える。協議に先立ち、神達市長よりあいさつをいただく。
市長	本日は、「常総市総合教育会議」ということで、教育委員の皆様にお集まりいただき感謝する。 今回は、教育長も新たにお迎えして新体制になってから初めての会議となるが、鬼怒川において水海道中学校の生徒が溺れ、亡くなるという痛ましい事故についてである。亡くなられた生徒のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に対してお悔やみを申し上げたい。また、現場で対応をしていただいた関係者の皆様においては、大変残念な思いであったと思う。今後、このようなことが二度と起こらないように、教育委員の皆様と率直な意見交換をしたい。
行政経営課長	協議については、神達市長が議長となる。市長に進行をお願いする。
市長	これより協議に入る。次第に沿って、事務局より説明願う。
指導課長	【別紙 資料に基づいて説明】
市長	ただいま説明があった。教育委員の皆様にご意見をいただきたい。
教育長	今回の事故について、教育に携わる立場として徹底した再発防止対策を行いたい。今回クローズアップされたのは外国籍の子に対する指導の在り方である。外国籍の子が小中学校に入ってくる経緯は十人十色。最初から日本に住んでいる子もいれば、日本に来たばかりで入ってくる子がおり、言葉の壁が大きく立ちほだかる。今回の水難事故だけではなく、命の大切さをどう伝えるか。その辺の課題も含めて、全児童生徒に対して命の大切さの徹底した指導というものを改めて感じた。
委員	小学校では危険な場所へは行かないという指導があるが、中学校でも同様にそうした指導は行っているのか。外国籍の

	生徒が川に入って遊ぶのは習慣や風習も含めよくあることなのか。
指導課長	中学校においても小学校と同様、川や用水路などで遊ばないという指導は、長期休暇前などに文書により注意喚起を行っている。また風習については、ブラジル国籍のみならず家族連れで遊んでいるのを見かける。
市長	川では完全に遊ぶなという指導を行っているのか。
教育長	魚釣りなどへ行くなということではなく、基本的には川に入らないという指導を行っている。課題として、外国籍の児童生徒には、こちらの常識が常識として通用しない部分が存在するため、安全教育の指導を再確認する必要がある。
委員	亡くなった生徒は小さい頃から日本で暮らしていたのか。
教育長	この生徒は、小学校に入る時点では日本にいた。水海道小学校に入学予定だったが、直前でブラジル人学校へ入学した経緯がある。その後、水海道中学校に入学するが、諸事情でほとんど学校には登校しなかった。当然、家庭訪問を行い、保護者とも相談した。最終的には、本人が学校に行くつもりはなくブラジル人の社会で生活していくと判断し、保護者承諾の上で中学2年生の10月に退学手続きをとった。しかし学校側としては、いつでも受け入れるという体制をとっていたため、中学校3年生の4月に再入学をした。
委員	言葉の壁があったと考える。4日の月曜日にブラジル国籍の生徒4人欠席した理由は何か。
指導課長	欠席者のうち一人は事故者の家族に連れ添っていたためである。もう一人も仲が良かったため、自宅で家族とともに悲しみを分かち合っていた。残りの二人も家族と付き合いがあったため、亡くなった生徒に寄り添いたいということであった。
委員	水海道地区に住んでいたと思うが、亡くなったのは石下地区である。何か理由はあるのか。

指導課長	一緒に遊んでいたブラジル国籍の友人たちが、石下地区に住んでいたためである。
市長	今後のことも含め意見交換をしたい。現在、岡田小学校が9か国の児童が登校しており、先生方も大変ご苦労されている。外国籍の保護者との連絡など工夫されていると聞いているが、日本国籍の児童も外国籍の児童と仲良くしようと頑張っている。この常総市の特色である多文化共生について、施策を実行していく中で多言語教育に力を入れていくタイミングではないかと考える。境町でも町独自で外国語学習を行っている。大学生、高校生からの街づくりの提案を聞くと、常総市の特色といえば外国語教育といった提案がされる。新しい策を考えていく必要性を感じる。
副市長	ほっとサタデーのカリキュラムに導入すれば補正予算に間に合うのではないかと。県内でも先駆的な制度を実施しているのだから、総合教育会議からの提案として、できるところから取組んでいっていただきたい。
教育長	既存事業を活用しスタート切るということであれば、ほっとサタデーだけに固執せず、発展性も考えたうえで早急に検討する。
委員	水海道西中学校では、外国語国際学級というのがあるのか。ほっとサタデーにおいて語学のカリキュラムを組むことはできるのか。
教育長	基本的には日本語指導教室として、外国籍の児童生徒には同様に対応している。どんな対応が必要かということで整理が必要である。例えば、水海道中学校では保護者の悩みを解決する場を設けている。また、NPO法人が有料で始めた事業がある。生活習慣や言葉についての指導を、学校でのカリキュラムに沿って行っている。その事業に参加する場合は小中学校としても連携し、出席扱いにするといった対応も可能と考える。
副市長	いずれにしても早急に、できるところから行動を起こす必要がある。

市長	現状は外国籍の児童生徒が分散している。先生の問題や保護者の状況も含め、環境を集約するというのはできるのか。
教育長	基本的にはそういう形をとっている。外国籍の生徒の場合、水海道中学校に養護指導教室を用意している。送迎など保護者の関係もあり現在の形になった。原則的に小学校は岡田小学校に集約し、中学校は水海道中学校にある程度は集約し進めている。
市長	これから日本人は減少し、外国人は増加するといった傾向があり、外国籍の児童生徒が増えていくように感じる。他市に先駆けてモデル地区になるような多文化共生を目指していただきたい。
委員	近隣市町でも外国語教育を進めている自治体がある。
教育長	NPO法人で実施していることは言葉の学習だけではなく、生活習慣の指導も行っている。一步踏み出して外部の力も借りて早急に進めていきたい。
市長	群馬県大泉町などの例も参考に、子供たちとの共生についてご提案いただければありがたい。
委員	今後は、外国の方々との共生は避けられない。児童生徒ばかりではなく保護者も巻き込んで発展させる。先生方は本当に細かくよくやっている。
市長	NPO法人も含め、いろいろな力を借りてご提案いただければありがたい。
行政経営課長	続きまして、その他について学校教育課より報告がある。

学校教育課長 6月18日に発生した大阪府北部地震の報道を受けて、本市においても校内と通学路における調査を行った。その調査の結果128件の危険箇所があることが判明した。再調査したうえで周知の仕方も含め対応する。また、校内については五箇小学校のブロック塀に傾きがあることが分かった。さらに玉小学校と石下小学校のグラウンドの的当て板も危険箇所として使用中止にしている。また、石下西中学校のテニスコートの的当て板も危険と判断し、使用中止としている。以上報告である。

行政経営課長 それでは以上をもって、本日の総合教育会議を閉会とする。貴重なご意見をいただき、ご協力に感謝する。

(午前9時44分 会議終了)